

「塘路・茅沼地域」、「久著呂・幌呂地域」、「温根内・北斗地域」での
自然再生に係る環境省の取組の検討

釧路湿原周縁域（バッファゾーン）での再生事業候補地域のうち、既に本格的な調査や事業が始まっている「広里地域」及び「達古武地域」に続き、標記3地域についても、基礎的な資料の収集や専門家・地域関係者からのヒアリングなどを進めている。以下はこれまでの中間的な作業結果から、自然環境保全上の主な問題点や課題例を地域別に洗い出し、環境省の取組の方向性を検討するために整理したものである。

1. 塘路・茅沼地域

(1) 自然環境保全上の問題点・課題

3湖沼（シラルトロ湖、塘路湖、達古武沼）における水環境の変化（水質の変化、水生植物種の減少等）

周辺地域からの生活排水、温泉排水、栄養塩類の流入による湿原への影響
湿原に隣接したキャンプ場の存在（湿原への影響と施設の頻繁な水没）
流路の直線化に伴う氾濫原の減少、生物生息環境や蛇行景観の悪化、土砂流出など

(2) 取組の方向性

3湖沼における水生植物種の減少等の実態把握と、水質との関係などその原因解明を目的とした調査を実施

調査結果を踏まえて、上流農地との間に緩衝地帯（樹林化・湿原化等）を設けることも含め、原因に対応した各種対策を検討

（関係省庁、自治体等との連携）

地域の水生植物を活かした生活排水、温泉排水の屋内浄化試験を実施

（地元ベンチャー企業、標茶高校との連携）

試験結果を踏まえて、野外での適用可能性を検討。環境教育・再生事業の普及にも活用

シラルトロキャンプ場の撤去、湿原環境の修復及び移設キャンプ場における

自然再生を活かした環境教育活動の展開

関連する取組：釧路川（茅沼地区）で一部蛇行河川の回復（北海道開発局）

2. 久著呂・幌呂地域

(1) 自然環境保全上の問題点・課題

周辺地域からの土砂、栄養塩類の流入による湿原への影響（ハンノキ林の拡大等）（久著呂川、幌呂川等）

残された自然蛇行河川の保全・修復、魚類等の生息環境の維持・改善（チルワツナイ川等）

タンチョウ等生物の生息場所としても重要な湧水群及びその周辺環境の保全・修復（宮島岬・キラコタン岬周辺等）

(2) 取組の方向性

土砂、栄養塩類流入の主な要因、流入経路の解明と流入量軽減のための効果的な対策を検討（関係省庁、自治体等との連携）

その中で湿原と上流農地との間に緩衝地帯（樹林化・湿原化等）を設けることの効果、可能性、優先度の高い場所などを検討（生活・生産活動域からの景観向上の視点を含む）

関連する取組：久著呂川での土砂流入防止対策、幌呂川地区での湿地再生

（北海道開発局・北海道）

重要な自然蛇行河川及びその周辺環境の保全を充実。河床への土砂堆積など、

自然環境の質を低下させている要素・要因を洗い出し、その改善方策を検討
（関係省庁、自治体等との連携）

重要な湧水群及びその周辺環境の保全を充実。湧水と生物生息状況、湧水と周辺植生・土地利用等との関係を把握するための調査を実施。周辺丘陵地帯の荒廃地や自然性の低い植生など、自然環境の質を低下させている要素・要因を洗い出し、その改善方策を検討（関係省庁、自治体等との連携）

3. 温根内・北斗地域

(1) 自然環境保全上の問題点・課題

市街地、農地等の拡大による湿原域の縮小とそれに伴うキタサンショウウオ、

ヤチボウズ等特有の生物生息・生育地の消失（北斗周辺等）

土取場等、丘陵地開発に伴う風景・景観の悪化、生態系の劣化（北斗周辺等）

ハンノキ林拡大や湧水地周辺開発に伴うタンチョウ生息環境の悪化（温根内川、北斗周辺等）

ニホンザリガニのまとまった生息地の保全（丘陵地沿いの湧水）

(2) 取組の方向性

キタサンショウウオ、ヤチボウズ等の分布、生息・生育に必要な環境条件等を把握・分析した上で、保全・再生の優先度の高い場所や効果的な再生・修復手法を検討し、残された生息・生育地の保全と埋め立て放棄地の湿原化による生息・生育地の再生・修復を実施

丘陵地の荒廃地について、景観修復、生態系修復の視点から再生優先度の高い場所、効果的な再生手法を検討し、実施可能な場所から広葉樹林を再生
タンチョウの分布、営巣・ねぐらなど生息・繁殖に必要な環境条件等を把握・分析した上で、生息環境の保全・改善の優先度の高い場所、効果的な手法を検討し、対策を実施

ニホンザリガニの生息と流入小河川や湧水との関係を把握・分析し、それらの水環境を維持・改善するための方策を検討・実施

(注) 今後の事業の展開、各地域の特性、行政界等を考慮し、対象地域の範囲や地域名称を一部修正した。